

金光教の声

平成
24年
7月～
9月
放送分

NO.400

《シリーズ 共に生きる》

第一回 日本語を学ぶ人たちと共に 1

第二回 当たり前ではない 6

第三回 人と人をつなぐ仕事 10

《平和》

この月を眺めて 16

《ラジオドラマ》「鈴木家の教訓」

第一回 ケーキの分け方 20

第二回 ひみつの作戦 26

第三回 あいうえお親子 33

第四回 元気な顔で 38

第五回 フナとナマズと僕と妻 43

第六回 クッキーを焼こう! 49

第七回 ドッジボール 55

第八回 最後の干し柿 61

最終回 鈴木家の一大事 66

《シリーズ 共に生きる》

第一回 「日本語を学ぶ人たちと共に」

ナレーション

皆さんは「日本語教育」という言葉をご存知でしょうか？ 私たちが学校で習う国語とは違い、日本語を一つの外国語として教えることを言います。

神戸市にお住まいの服部和子さんは、今年六十八歳。異国情緒溢れる神戸の街で現在、日本語を教えています。

服部 四十歳までは主婦でした。

小さい子どもも好きでしたし、英語も好きでしたから、まあ、私の英語って言っ

ても大したことありませんので、県立高校とか、その他、地域の私立高校に入学する方たちの英語のお手伝いを、何年かやっておりました。

私が日本語を始めたきっかけも、私が東京出身だったために、関西弁が出来ない。でも、東京弁は出来る。東京、共通語です。ね、「これを生かした仕事はないかなあ」と思って、日本語教育に関わり始めました。

ナレーション

現在、服部さんは、いくつかの大学で教える傍ら、NPO法人「実用日本語教育推進協会」の理事として、ボランティア

服部

日本語教師を育てています。

外国人に日本語を教える、その中で特に、「音声指導」っていうのに興味がありまして、色々なボランティア教室とかそういうところでご質問があるのは、外国人に教えてる時に、「発音がどうしても変で、どうやって直してあげたらいいか分からない」って言われるんですね。「じゃあ、どんなふうに変なんですか」って聞いたら、「いやあ、分からない。全体的に変なんです」って言われるんですね。その全体的っていうところを、きちんと聞き分けるためには、音声を、専門的でなくてもいいから、ちょっと分析的に聞

き分ける耳とか方法とか知識とかがあつたら聞き分けられる。

例えば、「拗音『きゃ、きゅ、きょ』の『きゃ』が言えない外国人にどうしてもその『きゃ』を言わせたい。どうしたらいいか？」っていうようなご質問があつた場合には、「『き』は言えますか？」って言ったたら、「『き』は言える」って。「『や』は言えますか？」って言ったたら、「『や』は言える」。「き」と「や」が言えたら、いきなり「や」に行かないで、「き・あ・き・あ」ってだんだん詰めて、「きゃ」つてもっていくような方法もあるし、いろんな、「きゃ」を使った単語を使うとか、聞いててコミュニケーション

ンがとれない発音とか、それからその方がすごく立派な方であるのかかわらず、人格が低く見られてしまうような発音をされたり、イントネーションであったり、そういうのをちよっとお手伝いするということ、そういう仕事ですね、音声指導というのは。

ナレーション

服部さんは、代々金光教を信心している家庭に生まれました。中でも一生懸命信心するおばあさんの姿は、当時、幼なかつた服部さんに、温もりや安らぎをもたらしました。服部さんは、金光教の信心との出会いを、おばあさんに思いを馳せ

ながら振り返ります。

服部

私もう一年生の時に祖母は亡くなりましてけれど、ほんとに少しの出会いなんですけど、もうとつても生き方、ほんとに心から尊敬して、敬愛って言いますかね。皆おばあちゃんが大好きですね。祖母は誰にも決して強制はしなくて、温かくて、村の人から、母たちから聞く話によりますと、行き倒れのような人たちもちゃんと面倒見てあげたり…。六畳ぐらいの部屋で、壁一面がご神前で、子ども心にちよつと結構、大きいなど思ってたんですけど、そこに祖母がいつつもご祈念してる側に私が横に座っていると

いう、それが何かじつと座ってるのが、嫌じゃなかつたんですね。祖母はほんとに一心不乱にご祈念しておりましたね。後から考えれば、ご祈念せずにいられなかつたことがいろいろあつたんだと思うんですけど、でも祖母の側にいたのはすごく楽しかつたっていうことと、祖母の姿がほんとにすてきな温かい…、それが原点かなって思います。

ナレーション

服部さんは小学生のころ、家族でお参りしている金光教の教会で、「人のお役に立たせて頂く」という言葉を耳にしました。その言葉は今もお、服部さんの心

に深く刻み込まれています。

服部

その言葉を通してね、お役に立たせて頂けるという喜びっていうのがあるのかなって、今回ちょっと改めて思いましたね。「教育」っていう字ですね、「教え育てる」って書きますけれど、やっぱり今は「教」っていうのは「共」、共に育つ、っていうかね、「共」という字を使うところが、私もやっぱり教える立場、こちらサイドにいる人も、あちら側に座る立場にいる人も共に育っていく。両方がね、何かが上達していく。それがスキル、いわゆる言葉の技術であるかもしれないし、その言葉の技術を得ることによって、

心が通じ合うっていうところが出てくる
と、一番うれしいなと思うんですね。そ
れは教師が上から見てては出来ないの
で、「共に育ち、相手を思いやる心を、

日本語教育を通して実現していく」って
いうことかなって、ちよつと思ったりし
ます。

日本語教育っていうことを通して、私自
身の世界が広がったと言いますかね。中
にはほんとにつらい環境から来ている学
生さんもいまして、その人たちが国の環
境でご家族が不幸な目に遭ってる。その
中、留学させてもらって来てるっていう
ような方たちもいらっしやるんですね。
ですから、そういう方たちの心がほんと

に癒やされて、強い自分になって、幸せ
になっていつて欲しいな、世界を広く見
る、考える人になって欲しいなっていう
ことを願います。

ナレーション

「やり甲斐のある仕事をさせて頂き、楽
しくうれしい毎日。神様にお礼を言わず
にいられない」と語る服部さん。大好き
なおばあさんの祈りに包まれながら、こ
れからも日本語教育を通して、共に育っ
ていきたいと願っています。

《シリーズ 共に生きる》

第二回 「当たり前前ではない」

入田 央

私は現在、気象庁を定年退職後、気象予報士を目指す人に、天気予報の技術を高めてもらう講座の講師をしています。

私には日常生活の中で、思わず口をついて出る言葉が三つあります。

一つ目は、お風呂に入って湯船に身を沈めた時に出る、「ありがとうございます」という言葉です。

お礼をするようになったきっかけは、気象観測のため富士山頂に滞在した時でした。山頂では、水はとても貴重なもので、お風呂に入ろう

と思うと、屋外に積もって固くなった雪の塊をスコップでせっせと掘り出して集めなければなりません。空気の薄い所ですから、重労働で十分も作業をすると息が切れて苦しくなります。

十日に一度入れれば良い方です。そのような中で頂くお風呂ですから、ドラム缶でも、例えつららが下がっているお風呂場でも、思わず、「ありがとうございます」と口をついて出るのは。山に登らなくなってもう相当経ちますが、お風呂に入ると、どこであつても、「ありがとうございます」と思わずお礼をしています。

二つ目は、今から六十年も前のことです。私は小学校二年生の時、結核を患い、母に連れられて電車で一時間余りの病院へ土曜日曜以外の毎日、治療を受けるために通院していたことが

あります。

病院では時々、レントゲン写真を撮り、病状が良くなっているかどうかを調べます。当時、病院へ行く時は、必ず教会へ参拝して、神様にお願いをしてから出掛けていました。その時、教会の先生がいつもおっしゃいました。「レントゲンを撮ってもらう時は、『金光様』ってお願いしなさい」と。私は小学生でしたが、通院した四カ月余り、レントゲン撮影をして頂く時は、必ず心の中で、「金光様」と唱えておりました。

おかげで学校も一学期休んだだけで済みました。それ以来、健康診断などでレントゲンを撮ることがありますが、今でも、「金光様」とお願いをしている自分があります。

さて、三つ目です。私は、日々頂く食物は多

少の好き嫌いはありますが、食べられないものはありません。けれども、あまり量を多く頂けません。皆さんと一緒に食事をする時は、残してはいけないと思って、ちよつと無理をすることがあります。そうすると、次の日、食事がおいしく頂けないことがあります。世界には食糧が十分に行き渡らない国もあるというのに、もつたいないことをしたなあ、と反省します。

金光教では、食事を頂く前に唱える、「食前訓」というものがあります。「食物はみな、人のいのちのために天地の神の造り与えたまうものぞ。何を飲むにも食べるにも、ありがたいただく心を忘れなよ」という言葉です。

今、私は、この食前訓の内容を、「私のいの

ちの元はここにあるのではないか」と思っています。しかも、日々、食物を頂くことも、ましてや空気や水を思うように使って快適な生活が出来ていることも、当たり前だと思えないようになってきたからなおさらです。

水や空気や食物は無尽蔵であるように誤解しがちです。しかし、例えば無尽蔵であっても、水や空気は汚染によって使えなくなる場合があります。また、暴飲暴食をしていては、身体を壊すことになりません。身体を壊せば食物をおいしく頂くことも出来なくなってしまうのです。

翻って、私たち人間は、食物が無かったら生きてはいけませんし、空気や水も必要です。どれが欠けても生きてはいけません。

そうとすると、食物が頂けること、空気や水

を使って生きていくということとは、当たり前ではないのです。なぜなら、当たり前の方が出なくなるからあるのですから。

このようなところから、私は、今、生きていくということは、決して当たり前なことではないと思うようになったのです。

日々唱えている食前訓の後段には、「何を飲むにも食べるにも、ありがたくいただく心を忘れないよ」と諭されています。これに対して、私はどうしたら良いのか考えました。

お風呂に入る時、思わず口について出た言葉「ありがとうございます」は、毎日、当たり前のようにお風呂に入ることが出来ていたら、どのようなお礼の言葉は出てこなかったでしょう。あの時、大変な思いをして、やっと入れた

お風呂だったからこそ、「ありがとう」という感謝の言葉が出てきたのだらうと思います。

このように、場面や言葉の表現は違っても、振り返り考えてみますと、どれも当たり前ではないことに、六十歳後半になってようやく気が付きました。

人は毎日食えることなくしては働くことも出来ません。いや、空気がなければひととき一時としても生をつなぐことは出来ないでしょう。空気も水も食べ物も、さらには地中深くに眠る化石燃料のどれをとつても、地球とこれを取りまく大気の中で、長い年月を経て整えられたものです。まさに、人はこの大きな地球という天体の中で、その働きによって、生かされて生きているのです。

私は、これから先、食物も水も空気も自由に使わせてもらえることは、当たり前のことではない。その当たり前でないことが今日も使わせて頂ける。今日も食事を頂ける。このことにお礼を申し、食物のみならず、エネルギーや人間関係にいたるまで、「ありがとう」と感謝の気持ちが広がっていく生き方を求めて参りたいと願っています。



第三回 「人と人をつなぐ仕事」

ナレーション

福岡県の病院に勤める八木睦未さんは現在二十八歳。医療ソーシャルワーカーとして忙しい毎日を過ごしています。

「医療ソーシャルワーカー」。あまり聞き慣れない名前ですが、どのような仕事なのでしょう？

八木 簡単に一言で言えば、生活全般の相談役。

年金のこととか、制度の説明はもちろんしますし、手続きの方法とか、後は身内がいらっしやらない方に関しては、公的

な部分ではないんですけど、入院中は、

後見人みたいな形でお金の管理をすることもあるし、後は身内、身寄りのない方とか、ホームレスの状態で運ばれてきた方とかであれば、まず身元を探ることから始めないといけないので、警察に行ったりとか、役所に行ったりとか、お家で大家さんを訪ねたりとか、そういうことまで始めるので、ここからここまでがワーカーの仕事っていうのが特に決まっていないんですよ。

ナレーション

「困ってる方の相談役です」と言う八木さん。仕事の内容は、多岐に渡りますが、

全てのことを八木さんが一人で担うというわけではないのです。

八木

例えばケアマネージャーさんだったらケアマネージャーさんを紹介して、一緒にまた考えてくれる人をどんどん増やしていくっていう感じですね。

医療面に関しては、退院した後、どういうことをしないといけないですか？ って聞くのは先生ですし、入院中の生活の状況を聞くのは看護師さんが一番やっぱり分かってることですし、後は、動きです。身体がどれくらい動くのかわかっていうのを一番分かってるのはリハビリの担当の方ですし、だから、一人だけでは進

められないので、病院の中でも、病院の外でも、その方に関わってる方を、どんなにつないで一緒に話し合っていくっていう、立場的には病院の中ではそんな感じの仕事ですね。

ナレーション

時には、患者さんと、ご家族の間に入って、疎遠になってしまっている家族関係の修復もお手伝いします。

八木

結構、病気って、いい機会だと思っすよ。今まで、誕生日とか、節目節目で、連絡を取る機会があったとしても、なかなかそれぐらいじゃ取らないと思う

んですけど、病気になったって言ったたら、

ナレーション

やっぱり少なからず心配する気持ちって
いうのは、どれだけ離れててもあると思
うんです。病気って、ほんとにいい機会
で、家族同士が、やっぱりまたつながれ
る機会にはなってると思います。それを
きっかけに、私なり、専門のスタッフが、
間に入って、直接話がしにくいんであれ
ば、間に入ること話せることっていう
のもあると思うので、それがつなぎ目
なるんであれば一番有り難いことだし、
それで家族が再生して、うまくいってる
例もあります。

就職して間もないころ、一人暮らしで社
会から孤立してしまった方が、病院へ運
び込まれ、八木さんが、この方を担当す
ることになりました。やがて、ケアマネ
ージャーや、ヘルパーの方、お医者さん
や看護師さんなどとの関わりの中で、孤
独だったこの方に、人と人とのつながり
が生まれました。

八木

退院される時に患者さんから、「倒れて
良かった。ありがとう」って言ってもら
ったのが一番嬉しくて…。

本来、倒れるっていうことは、病気にな
るっていうことは、苦しいことなんです

けど、その苦しいことをきつかけに、もう一個、次の段階に行くことが出来たつていうことで、私が役に立てたつていうのも、もちろんうれしかったです。一人、また社会に戻つてつながってくれる方が出来たつていうことで、それが一番、今も、ずーっと残つてて、初心を忘れないように、「ありがとう」つて言われる度に、それを思い出しますね。

ナレーション

患者さんの喜ぶ顔に元気をもらい、毎日の仕事に励む八木さんですが、仕事をしていく上で、大切にしていることがあります。

それは、普段お参りしている教会の先生から教えてもらった「ある言葉」です。

八木

教会長先生からですね。「人はみな神の氏子」つていう言葉を頂いて。人はみんな神様の子なんだから誰でも同じ。

どうしても、相談を聞く側なので、「してあげる」「してもらおう」つていう関係になつてしまいがちなんですけど、それは意識的にですね、たまたま私が専門の分野で福祉のお仕事、制度のこととか、それにたまたま詳しいだけだし、今までの仕事の中で、相談を一件するにつれて、私をもっと成長させてもらつてるなつていうのが、一番あるので…。

私は一方的にしてあげるわけではなく、逆に患者さんからしてもらっていることが一番あります。これからも、私も得意な分野では、もちろんお役に立たせてもらうし、患者さんからも成長させて頂いてるっていう立場で、それを大事にしていこうかなと思ってます。

ナレーション

患者さんのお世話をする八木さんですが、逆に、患者さんから教えてもらい、成長させてもらっている、と笑顔で語ります。

多くの人に支えられて仕事をやる八木さんの中に、ある思いが強くなってきまし

た。

八木 今までは、こう、やっぱり、してもらって、助けられることが多かったの、今後は、「この人に頼めば大丈夫だよ」っていうような、私も助ける一部になっていくんですよ。役に立ちたい。お役に立てるように、仕事もそうだし、生活もしていきたい。自分が、与えられた部分を返したい、っていうのが一番大きいかも知れないですね。

ナレーション

患者さんと家族、お医者さんやヘルパーさんなど、多くの人と人をつないでいく

ことが医療ソーシャルワーカーの仕事。
八木さんの周りには、今日もつながり合
った人々の笑顔があふれています。



「この月を眺めて」

金光教漆生教会 鳥越正克

これは、今から七十年ほど前、戦争という激動の波に飲み込まれた私の父、父の弟、そして祖母にまつわるお話です。

昭和十六年十二月八日の真珠湾攻撃で始まった太平洋戦争は、三年八カ月にわたり、日本だけでも二百万人以上のたくさんの命が奪われました。あの日あの時、私の父や叔父は何を思いながら戦い、そして祖母は何を祈ったのだろうか。

私の祖父母は明治の末に移民としてアメリカに渡り、日系人相手の金物屋を開きました。そして一旗揚げ、アメリカで生まれた三人の娘を

残し、日本へ一時帰国しました。

帰国したその年の大正十年に待望の長男として私の父が生まれました。すでに四十八歳になっていた祖母は、「私は日本に錦の旗を立てた。この子は私の顔を立ててくれた」と近所の人に生まれたばかりの私の父を自慢しました。

やがてアメリカに帰る時期になりました。しかし、生まれたばかりの私の父にはビザがないことが分かり、二人は仕方なく我が子を手に預けて、悲しみの中、アメリカに帰りました。父が物心つくころ、遠く離れたアメリカでは弟が生まれていることなど、父は知る由もありませんでした。

父の成長期は、満州事変から日中戦争といった戦争時代でした。旧制中学校を卒業した父は、

「捨て子の俺が死んでも悲しむ家族はいない。どうせお国のために死ぬのなら、大陸で思いっきり暴りたい」と陸軍士官学校を受験し、少尉になると志願して満州へ渡りました。

中国軍と小競り合いの日々を送っていた父の元に、一通の手紙が届きました。それはアメリカの祖母からの手紙でした。戦争している日本の我が子のことを心配し、「おまえに会うまで母さんは死ななぞ。おまえも達者にしておくれ」とつづられ、「おまえの弟だよ」と書かれている一枚の写真が同封されていました。

まだ見ぬ母の手紙を読みながら、「俺は親から捨てられた人間だ」と思い込んでいた父は、「俺にも心配してくれている家族がいたんだ」と、胸が高鳴りました。

そのころアメリカでは、日本との戦争がうわさされていましたが、日系人は、「まさか戦争はしないだろう」と話していました。でも、うわさは本当になりました。

日系人は強制収容所に隔離されましたが、後に日系アメリカ部隊を編成することになりました。収容所では、日本とアメリカのどちらに付くかでけんかが絶えず、日系一世の多くは二世の若者に、「祖国日本に銃を向けるのか」と怒り、若者は、「アメリカに生まれ、アメリカで育った者はアメリカに忠誠を尽くすべきだ」と息巻き、叔父を含む多くの若者がアメリカ軍に志願しました。

叔父が入隊する夜、ベンチに腰掛けた祖母が泣きながら、「日本の我が子もこの月を眺めと

るかのう」とつぶやきました。日本に残した子どもを思う親の心に触れた叔父は、「決して人に銃を向けないことを神様に誓うよ」と、祖母の耳元でささやき、収容所を後にしました。

叔父は通信隊に配属されました。二世部隊の多くがヨーロッパ戦線に向かう中で、叔父は日本軍が玉砕したアッツ島へ赴任し、北海道上陸をうかがいました。

「目の前には父母の、そして血を分けた兄が住む日本がある。そこに銃を持って上陸する自分を想像した時、初めて戦争が怖くなり、身震いした」と、戦後私に語りました。

叔父はさらに中国に転任し、日本軍の情報収集に当たりました。その頃父は、満州から日本に転任していました。一步間違うと兄弟同士が

銃を撃ち合う悲惨な状況になるところでした。

終戦後、叔父は日本に進駐する命令を受けましたが、「弟で、しかも、階級が下の私が戦勝国として日本に行けば、陸軍大尉の兄は恥じて自決するので行けません」と命令を拒否し、除隊して帰宅しました。

叔父の無事を見届けた祖母は、病に冒された身を押しして祖国日本の土を踏み、父と再会いたしました。祖母はその日から毎日、「寂しい思いをさせたね。ごめんなあ」と、泣きながら土下座をして父に謝り続けました。

また、日本に帰ってからも、月を眺める度に、「アメリカの我が子もこの月を眺めとるかのう」と、父に聞かせるでもなくつぶやいていました。祖母は、戦争で引き裂かれた姉兄弟きょうだいが語らう姿

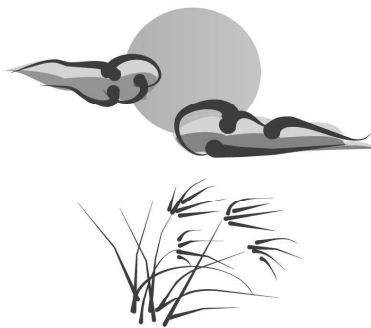
を見ることなく、父一人にみとられて昭和二十三年に日本で亡くなりました。

戦後縁あって金光教を信心していた父は、私を含め三人の男の子を授かりました。私たちがけんかをする度に父は、「けんかはどちらが正しいじゃない。けんかをする姿を見るのが悲しい。神様も切なかるう」と諭し、生涯に一度として手を挙げませんでした。

叔父もまた来日する度に、「戦争は人の幸せを奪う最も悪質な差別だ」と、語っていました。昨年八十七歳で来日した叔父は、その時に、「親の反対を押しして兄さんに銃を向けたことを墓前におわびしたよ。おまえは私が死んでもアメリカまで私の葬儀に来なくてもいい。私は母さんと兄さんが眠るここに来るからね」と、日本を

離れる朝に、自ら切った白髪を私に託しました。

こうした戦争体験を聞かせてもらった私は、世界中に起こっている紛争のニュースを目にする度に、「もしも、あの国のあの子、あの人、わが子、わが弟だったなら」と想像しながら、「どうぞ世界が平和でありますように」と祈れるようになりました。



《ラジオドラマ》

鈴木家の教訓

脚本 柴田壽子

第一回 「ケーキの分け方」

登場人物

鈴木信一郎 (おじいさん・七十八歳)
鈴木 房子 (おばあさん・七十四歳)
鈴木 清一 (父・四十五歳)
鈴木 治美 (母・四十二歳)
鈴木 美絵 (中学二年生)
鈴木 誠 (小学四年生)

誠

僕の名前は誠、苗字は日本で一番多い鈴木。家は東京の郊外にあって六人家族だ。おじいちゃんは…。

信一郎

オッホン。鈴木信一郎。

房子

鈴木なんて誠がさつき言ったから、言わなくていいのよ。私は房子。

誠

これはおばあちゃんだ。そしてお父さん。

清一

僕は清一、会社が忙しくてたまらん。

治美

あら、このご時世に忙しいのは結構だわ。私は治美。

誠

お母さんだ。パートに行っている。そして、何事もぶきつちよな姉ちゃん的美絵…。

美絵　　こらー誠！　ぶきつちよとは何よー！

(ワンワン)

誠　　あつ、ジローが外でほえてる。

美絵　　逃げるな誠、待ちなさい！

(風呂場、シャワーの音)

誠　　うん、ピッカピカだ。綺麗に掃除出来

た。お母さん、お風呂の掃除終わっ
たよー。

治美　　はい、ご苦労さん。それじゃ三十円。

誠　　僕はこうして家の手伝いをして、お小

遣いをもらっている。何でも一回三十

円だ。お皿洗いも三十円。僕はせつせ

と貯金をしている。絶対に欲しい物が

あるんだ。それはゲームソフト！そ

のためならちよつと欲しい物でも我慢

して貯金をする。

ある日のことだ。

美絵　　ねえ誠、今日、お母さんのお誕生日よ。

誠　　あ、そうだった！

美絵　　でさあ、二人のお小遣いでお母さんに

バースデーケーキ買わない？

誠　　えっ！　僕：そんなにお小遣いたまっ

てないよ！

美絵　　何言ってるの、時々貯金箱のぞいて二

ヤニヤしてるくせに。

誠 姉ちゃん、僕の貯金箱見たの？ サイ

テー！

美絵 失礼な！ 誰がそんな！ さ、行こ。

(商店街のノイズ)

美絵 誠、そんなにブスツとした顔してついで来ないの！ お母さん絶対に喜ぶか

ら。

誠 そんなこと分かってるさ！

美絵 あっ、ここ、ここ。このお店のケーキ、超おいしいんだって。

誠 あっちの方にもケーキ屋あるよ。

美絵 駄目よ！ あそこは安いけどおいしく

ない！

誠 そうだけど…。

美絵 さ、入ろ。

(ドア、カランコロン)

誠 (小声) ヒュー！ 姉ちゃん、メツチ

ヤ高いよー。僕たちのお小遣いでこんな大きなバースデーケーキなんて買えないよ。

美絵 それは、まあ、そうだね。家は六人家

族だからね。

誠 (小声) このケーキの値段なら、ゲ

ムソフト買える…。

美絵 誠、何ブツブツ言ってるの？

誠 別に……。あのさあ、お母さん一人に一

個だけつてのは駄目かなあ。

美絵 (小声) 良かったじゃん、誠。
誠 (小声) うん！

美絵 それじゃあ、意味がない。あのさ、ほ

(皿やフォークの音など)

らあれ。

誠 あの、ちよつと小さ目の？

美絵 そう、あれなら何とかみんなで分けて

治美 綺麗なケーキ、切っちゃうのもつたい

食べられると思うよ。あれにしよう。

ないみたい。

誠 うん……。 (ほとんど独り言) でも高い

誠 ねえ、早くしてよ。

よなあ……。

美絵 じゃあ私が切る。

(ハッピーバースデーお母さんの歌)

誠 姉ちゃんはぶきつちよだから駄目。お

ばあちゃん。

治美 ありがとう！ 二人からこんな素敵な

房子 はいはい。じゃあね、うん、うん。
あちら、あらあら……。

プレゼントもらうなんて……。すごくう

誠 大っきいのや小つちやいのが出来た

れしいわ。

ー！

美絵 誠の真剣な目！ 魂胆は分かつてる

よ。

誠 姉ちゃんの意地悪！

美絵 (歌うように) 今日はお母さんのハッ

ピーバースデー。

誠 (心の中で) じゃあお母さんが一番大

きいの、次に大きいのが僕かな…。

信一郎 そう言えばなあ…。

美絵 何？

信一郎 去年の震災の時、食べ物が行き渡らな

くて、一切れのパンやおにぎりを、み

んなで分け合って食べてたって話を、

テレビで見たような気がしたなあ。

房子 そうでしたねえ。人への思いやりや助

け合いの心に感心しましたね。物が豊

かになると、そういう心が影を潜めて
しまうから。

信一郎 自分の欲を捨てて…。

誠 自分の欲って？

信一郎 欲望。欲しいと思う心を手放すことか

な。

誠 欲を手放す？

信一郎 そうだよ、なかなか難しいことだと思

うがね。そうして震災の後、みんな

助け合っていたんだ。立派なことだと

感心したよ。

ふーん、すごいね。僕なんか…。

美絵 …出来る訳がない。

誠 どうせそうだよ！

清一 おいおい、母さんの誕生日へ話を戻そ

う。

房子　　そうそう、じゃあお皿に分けますよ。

はい、はい、はい。

誠　　お母さんに一番大きいの！

治美　　あらあら。

誠　　だって、今日の主役だから。

美絵　　誠、言うねえ。見直したよ。じゃ、次に大きいのは？

うーん…。じゃあ、年の順でおじいちゃん。

誠　　いやいや、私は年寄りだから…。

信一郎

（心の中で）僕は泣く泣くお金を出したんだけど、一番小っちゃなケーキで我慢しよう。おじいちゃんが言った、

美絵　　誠、良かったね。

誠　　へへっ。

（ワンワン）

「欲を手放す」っていうのをやってみよう。でも、すごい決心がいるなあ…。

治美　　誠。

誠　　え？　何か言った？

治美　　何ボーツとしてたの？　私のこの大きいケーキをどうぞ。

えっ、いいの？　本当に？

誠　　いいのよ。誠がおいしそうに食べるの

を見てるのが、私には二つ目のプレゼント。

ゼント。

ゼント。

誠、良かったね。

へへっ。

（ワンワン）

誠 あっ、ジロー。僕、このケーキの上の

イチゴ、ジローにあげてくるよ。

美絵 誠、イチゴ大好きなのに…。

登場人物

誠 いいんだよ、ジローにだってお母さん

誠

のお誕生日を祝って欲しいもの。

信一郎

隆 (誠の友達)

誠 今日の教訓

美絵

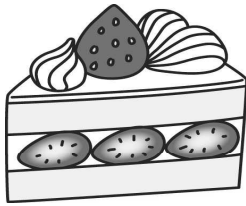
『欲を手放すと、みんな笑顔に』

治美

ジロー(犬)

権太 (誠の上級生)

ワンワン。



第二回 「ひみつの作戦」

(通り過ぎる自動車や、自転車のベルなど)

誠 ねえ隆、どこでサッカーする？

隆 あそこの児童公園は？

誠 駄目だよ、いつも怖いおばさんが居て、

(おばさんの口真似) 「あんたたち、

ここは児童公園なのよ。小さい子ども

が遊ぶ所でサッカーなんかしたら、危

ないでしょ」。

隆 だよなー。

誠 ボールで遊ぶ所ってないんだよなー。

うん。…あ、そうだ、あそこのマンシ

ヨンの広場はどう？

誠 おっ、いい考え。

(自転車のベルの音)

隆 よーし、パスの練習をしよう。

誠 オツケー！

隆 ホラ！(蹴る)

誠 ええい、よーし。(蹴る)

隆 いいぞ。よっ。(蹴る)

誠 えいっ！(蹴る)

隆 その調子、やっ。(蹴る)

誠 なあ、シュートの練習もしたいなあ。

隆 いいよ、僕、ディフェンスやるから、

誠、シュートしてみろよ、ここの隅っ

こをゴールとする。

隆 うん。

隆 思いつき蹴ってみろ。

誠 よーし。えい！(蹴る)

隆 うわっ！

権太 なんだ。

権太 ダ・メ・だ。

隆 (小声) ヤバ、六年生の権太だ。

誠 校長先生が毎年入学式の時に、「下級

権太 こんなへつたくそなボール蹴りやがっ

生には優しく」って言ってるだろ！

て。

権太 フン、バカかお前、一年生か？ グズ

隆 あ、僕のボール、返してよ。

グズしてると、ぶっ飛ばすぞ！

権太 おいこら、二年生。

誠 ボール返してよ。

誠 違うよ、四年生だよ。

権太 返してやる。えいっ！

権太 あんまりトロいから二年生かと思っ

た。お前からここでサッカーしていいと

(ボールが頭に当たる)

思ってるのか？

隆 だってー。

誠 痛っ！ 頭に当てるなんて！ ルール

権太 ここは、お前らの来る所じゃない。こ

違反だ！

こに住んでる人たちの広場だ。

権太 ブツ、ハハ…。

隆 ちょっとぐらい使わせてくれたってい

隆 (小声) 誠、帰ろう。

いじゃないか。

(町のノイズ)

誠 悔しいなあ。

隆 あの権太、乱暴者ですごい悪ガキなんだって。六年生がそう言ってた。

誠 なあ、権太ってあだ名か？

隆 多分。

誠 あいつに仕返ししてやろうよ。

隆 うん、いいよ！ どんな仕返し？

誠 隆も考えろよ。

隆 そうだなー、先生に言いつける…駄目だね。じゃあ、あいつの家のドアに、

「権太のバカ、意地悪」って書いてやる。

誠 マンションなんて人が多いから、誰か

に見付かるよ。

隆 そっか…。

誠 あ、もう僕んちだ、こないだ買った漫画の本貸してやる、面白いよ。

隆 うん。

誠 あれ、おじいちゃんが庭にいる。おじいちゃんただいま。

信一郎 おう、お帰り。友達か？

隆 こんにちは。

信一郎 ああ、いらつしやい。

誠 おじいちゃん、シャベル持って、何してるの？

信一郎 ああ、植木の苗買ってきたから、植えるよーと思ってな。

誠 ふーん、…あつ！

信一郎 どうした？

誠 別に…。おい隆、こつち来いよ。

隆 何だよ。

誠 いいこと思いついたんだ。落とし穴を

掘って、権太を誘い込むんだ。

隆 それ、賛成！ でも成功するかな？

誠 あのシャベルで掘れるかどうか、僕ん

家の庭で試してみようよ。晩ご飯終わ

ったらこつそり来いよ。

隆 うん。

(シャベルで掘っている)

誠 掘れる掘れる、僕たちにも出来るよ。

隆 なあ、こんな場所に掘って、家の人、

落ちないか？

誠 大丈夫だよ、こんな隅っこ、誰も来な

い。

(ワンワン)

誠 おいジロー、静かにしろ。…ふー、疲

れたなー。

隆 こんなんじゃ、まだまだだよ。

誠 落とし穴って、掘るのも思ったより大

変だね。なあ、今日は遅いからこれで

やめよ。

隆 この穴、埋めなきゃ。

誠 いいよ、段ボールで塞ごう。権太の落

とし穴は明日の夜決行だ。

隆 うん！

(ワンワン)

誠 おい、姉ちゃんが来たから隠れる。

隆 ああ。

美絵 ジロー、何ほえてるの？

(ワンワン)

美絵 そんな所に何かあるの？ (大声) ワ

アッ！

治美 美絵、美絵どうしたの？ 何、その格

好？ 泥だらけじゃない。

美絵 痛っ！ 足首痛い。

治美 大丈夫？ 骨折れてない？ 病院に行

こう。立てるかなあ、さ、私につかま
って。

誠 …ごめん、姉ちゃんごめん。

隆 本当に、ごめんなさい。

信一郎 誠、お姉ちゃんは、大したけがじゃな

くて良かったなあ。だけど、どうして
落とし穴なんか作った？

誠 六年生にいじめっ子がいて、そいつに

仕返ししてやろうと思って。おじい
ちゃんのシャベルで、穴、掘れるかなっ
て…。試してみたんだ。

信一郎 なるほど、面白いことを考えたじゃな

いか。で、どうする？ また落とし穴

作るか？

誠 もう、しないよ！

信一郎 どうして？

誠 だって、権太がひどいけがをしたら、
権太のお父さんやお母さんが、とても
心配するから。

信一郎 よし。良いことに気付いたな。それに
してもハハハ…。

誠 どうして笑うの？

信一郎 考えてもみる、こんなコンクリートだ
らけの道の、どこに落とし穴を掘るん
だ？（大笑い）

誠・隆 今日の教訓

『仕返しはしないこと』



第三回 「あいうえお親子」

登場人物

信一郎

良美 (隣の主婦)

房子

梓 (良美の娘・幼稚園児)

(鳥のさえずり)

(ほうきで道を掃いている)

信一郎 やあ、お隣の…、おはようございます。

良美 おはようございます。

信一郎 いやー、家の前まで掃除を…。

良美

いいえ、いつもご主人に、家の前までお掃除して頂いて。たまの日曜くらい私がしなくっちゃ。

信一郎

なんのなんの、家の婆さんに、「掃除は運動になるのよー」と言われて、まあ、運動のつもりでやっておりますのでお気遣いなく。今日は先を越されましたな、ハハハ…。今日は、ご主人とお嬢ちゃんはお嬢ちゃんはお嬢ちゃん？

良美

遊園地に行きました。

信一郎

お嬢ちゃん、大喜びでしょうな。

良美

ええ。私は幼稚園のバザーの打ち合わせがあつて。

信一郎

それは、お嬢ちゃん、がっかりですね。

良美

あの一、変なこと言いますけど。

信一郎 え？

信一郎 へえ、そういうものですか。世の中変

良美 私、夫に子どもを預けると、何だか解放されたような気分になるんです。

信一郎 わりましたな。私の亡くなった母が、神様を信仰していたので、昔よくこんなことを言っていましたよ。

信一郎 そういうものですか。

良美 どんな…？

良美 毎日子どもに掛かりつきりで、夫は帰りが遅いし…。

信一郎 毎日の弁当を作るのは「心」だって。

信一郎 はあ。

良美 心？

良美 朝から毎日幼稚園のお弁当作って、「早くしないと遅れるわよ」なんて、キーキー大声出して。お弁当も「キャラ弁」作って、なーんて言われて。わあ大変って。

信一郎 何、何ですか？ 「キャラ弁」って？

信一郎 はい、朝早く起きて、夫や子どもたちの弁当を作る時に、「ああ眠たい」「面倒くさい」「邪魔くさい」など、「くさいくさい」という心で作ると、その弁当を子どもが学校で食べる時に、母親の、「くさいくさい」という心の味の弁当になる。

良美 あらホホ…。アニメの顔みたいなカラフルなお弁当。

良美 あらー、考えてもみませんでした。

信一郎 だから、「今日も子どものために弁当

作りが出来て有り難い。どうぞこの弁当を食べて、すくすく育って欲しい…」

と、母親の温かい愛と祈りの心で作ったら、その心が伝わって、良い子に成長する、と。

良美

良美 あら、そういう考え方があったんですね。良いことを伺いましたわ。

信一郎

信一郎 私の考えたのに、「あいうえおママさん」というのがあるんですよ。

房子

良美 あら、どういう意味ですか…？

信一郎 つまり「あ、愛情、い、慈しみ、う、

初々しさ、え、笑顔、お、思いやり」。

つなげて言えば、愛情を込めて、慈し

み深く、初々しさを失わず、いつも笑

良美

顔で、思いやりのある子に育てよう、

ということですね。「あいうえおママさん」の居る家庭は、きつと明るい家庭だと思えますよ。お宅みたいに。

良美 あら、そんな。ご主人お世辞なんかお

つしゃって。私、とても勉強になりました。でもその通り出来るかなあ…。

信一郎 あまり、頑張り過ぎないようにね。

ところで、お宅のニーコちゃんは…。

房子 (突然) おじいさん、こんな所でおし

やべりですか。お花に水をやるうと思

って庭に出たら、チリトリが放りっぱ

なしで、来てみたら…。ごめんなさい

ね奥さん、この人おしゃべりで。

良美 あら、とんでもない。いいお話を伺っ

てましたの。あの、さつき、「お宅の
ニーコ」って、家に猫なんか居ませ
んけど。

梓の声

あのね、仲良しのミツちゃんのお父
さんが昨日死んじゃったって、先生が言
ったの。私、ミツちゃんが可哀想で、
ミツちゃんのお父さんもう居ないんだ
なあ…、ミツちゃんどんなに寂しいだ
ろうと思うと涙が出ちゃうの…。

信一郎

ああ、いやいや猫じゃなくて、お宅の
お嬢ちゃん、いつもニコニコしてられ
るので、「ニーコちゃん」って私たち
であだ名つけて。(妻に)なあ。

房子

(笑いながら) ええ。

信一郎

梓ちゃんは優しいお子さんですね。感
心しましたよ。

良美

娘は梓って言います。

信一郎

そう、梓ちゃん。先日ね、幼稚園帰り
の梓ちゃんに、ここでばったり出会っ

房子

おじいさん、そろそろ、奥さんお忙し
いのよ。

たんですよ。そうしたら泣いてるんで、
びっくりして、どこか具合でも悪いの

信一郎

あ、そうだ！ 幼稚園のバザーでした
な。

かなと思って、「どうしたんだい？」

良美

はい。

って声を掛けたら…。

房子

あら、バザーなら結婚式の引き出物と

か、家にも色々ありますから。今探してお持ちしますよ。

房子

え？ ストラップのために携帯買うんですか？ まあまあ、あきれた。携帯なんておじいさん使いこなせるんですか？

良美

助かりますわ、ありがとうございます。

信一郎

その夜のことだ。

良美

今日の教訓

梓

ごめん下さい。

梓

『愛情・慈しみ・初々しさ・笑顔・思いやり』

信一郎

はいはい、おや梓ちゃん。

梓

おじいちゃん、これ遊園地のお土産。

良美

『あいうえおママさんで頑張りまーす』

信一郎

ほうー私に？ 何だろう？ うれいな。

梓

ストラップよ。

信一郎

おー可愛いね、大事にするよ、ありがとう。



第四回 「元気な顔で」

登場人物

房子

誠

健二 (房子の次男・清一の弟)

(セミの鳴き声)

誠 夏休みも終わりに近い日曜日、健二お

じさんが来た。お父さんの弟だ。

健二 あれ、母さんと誠君しか居ないの？

房子 そうよ、みんな出掛けちゃって。

健二 誠君が家に居るなんて、夏休みなのに

珍しいね。

房子 だって、ね。

誠 何だよ、おばあちゃんまで。

房子 夏休みの自由研究、まだ終わってない

んだって。

誠 おばあちゃんのいじわる！

(袋から物を出す)

健二 はい、これ。

誠 何？

健二 はい、これとこれとこれだ。

健二 お土産っていうか…。

誠 えー、これって、パチンコの景品？

房子 健二、あなたパチンコもうやめたんじやなかったの？

房子 仕事忙しいの？

健二 うん、二年ぶり。何だか、パチンコ屋の前を通つたら、ついふらふらつと入

健二 ううん。勤めはそうでもないんだけど

つちやつた。

：。僕さあ、ホームレスの人たちのボランティアやってたの、知ってたですよ。

誠 二年ぶりでこれだけの収穫つてすごい

房子

ええ、ええ。

よ。チョコにクッキーにビールなんて！

誠 ねえ、おじさん、ホームレスの人って怖くない？

房子 どうしたの？ 何だか元気ないみたい。

健二 誠君は、ちよつと怖いとか近付きたくないって思ってるだろ？

健二 元気…ねえ、なかなか出ないんだよ。

誠 うん、まあ…。

(ため息)

健二 僕が始めたそもそものは、友達に誘われたんだよ。寒い冬に古毛布を集めて、

誠 叔母さんとけんかしたの？

テント村に持って行ったんだ。ホーム

健二 違うよ。どんなに忙しくても、月に一

レスのおじさんたちはとても喜んでく

健二

凍死。

れたよ。初めは近付き難かったけど、

誠

えっ？

親しくなると、どこにでもいる普通の

健二

寒さで死んじゃったんだよ。雪のちら

おじさんだよ。

誠

へえー、そうなんだ。

ついていた夜だった。寒そうに段ボー

健二

でね、相手の人が喜んでくれる、その

ルで寝ていたから、毛布とカイロを渡

ことが僕はとてもうれしくて、どんど

したんだ。で、「明日ブルーシートを

んのめり込んでいったんだ。

持って来るね」って言ったたら、「あり

房子

そう。

がとう」って。…あくる日行ったら亡

健二

炊き出しやったり、おにぎり作ってテ

くなってた。もしかしたらあのおじい

ントの人に配ったり。

さんは、死にたかつたんじゃなかった

誠

へえー。

て思ったんだ。毛布だつて使つてなか

健二

それが今年の二月にね、親しくしてい

ったのかも知れない。僕に、「ありが

たおじいさんが亡くなったんだ。

どう」って言ってくれた顔が今でも浮

誠

病気？

房子

…そうなの。

健二

もしあのおじいさんが自分で死ぬことを選んでんなら、多分それは経済的なことじゃなくて、精神的なことなんだろうなあつて思ったり。…悲しいよ。

房子

もしそうなら、誰にも助けられないんじゃないの？

健二

それからまさあ、僕、一生懸命やったんだよ、やらなきゃいけないって。だけどやるにつれて、何だか僕自身が、追い詰められてるようになってきて…、僕はどれだけ人の役に立ってるんだろう、って思うと、自信がなくなつて。プツンと糸が切れたみたいに…。それで足が段々遠のいて…。めったに行かないパチンコ屋に、ふらつと入っ

たりして…。

房子

健二、今まで相当無理をしてたんじゃないの？ そのホームレスのおじさんたちを大事にすることも大切だけど、私たちの心と体は神様から頂いたものだから、自分自身も大事にしなきゃ駄目よ。

健二

え？

房子

だから、そんなうつとおしい顔してちゃ駄目よ。ほら、おじさんたちだって、あなたの元気な顔を見た方がうれしいに決まってるでしょ。

健二

そうか、母さんありがとう。僕は自分を捨てて、頭でっかちにボランティアしてたんだ。

(セミの声)

房子 外は暑そうね…。

誠 テレビで熱中症とか言ってるよ。

健二 あのおじさんたちどうしてるのかな

あ、顔見たくなっちゃった。また…行

ってみようかな…。

誠 おじさん、僕も連れてって。

房子 誠、何か魂胆があるでしょ。

誠 おばあちゃんは鋭い。

房子 まさか、夏休みの自由研究の…？

誠 へへへ…。

房子 そんな気楽な考えで行ったら、おじさ

んたちに悪いんじゃない…？

誠 僕、真面目だよ。

健二 母さん、新しいタオルとかせっけんと

かある？

(玄関のドア、ボタン閉まる)

誠 ただいま！ おばあちゃん、おばあち

ゃん。

房子 何です？ 騒々しい。

誠 ホームレスのおじさんがね、健二おじ

さんの顔を見て、「ずっと顔を見掛け

なかつたから、病気じゃないかって心

配してたんだよ」って言ったの。おじ

さんったら涙ぐんだりして。僕のこと

孫みたいって、可愛がってくれたよ！

第五回 「フナとナマズと僕と妻」

登場人物

清一

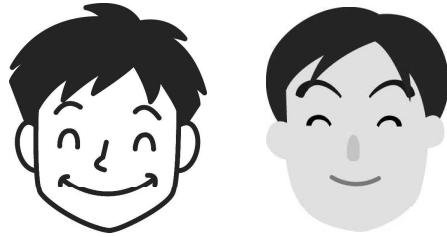
山田 (清一の会社の先輩)

治美

女1 (近所の主婦)

女2 (")

(病院のノイズ)



清一 山田さん、お体、いかがですか？

山田 おっ、鈴木君来てくれたの？

清一 だって、昨日会社で、先輩、急におな

かが痛いつて。すぐに救急車で行って。

ずーっと気になってたんですよ。

清一　まあ、そうですね。

山田　いや、悪いね、胆石だったよ。

清一　胆石！　それで？

（犬の遠吠えなど。深夜の雰囲気）

山田　うん、昨日も今日もいろんな検査。俺、

まさか病気になるなんて思ってもいな

（玄関ドアの開閉）

かった。君は…。

清一　え？

清一　ただいま。

山田　健康診断受けてる？

治美　お帰りなさい、今日も遅いのねえ。

清一　まあ、会社のだけ。

清一　うん…。疲れた。

山田　一度ちゃんと人間ドックに入った方が

治美　ご飯は？

いいよ。ここの病院、一日ドックがあ

清一　いない。

るって、いいそうだよ。

治美　いないのなら、電話かメールしてく

でもねえ、会社休むの…。

れたらいいのに。

山田　そんなこと言っていると、俺みたいにな

清一　今日さ、会社の仕事で外に出た時、ち

るよ。

よこつと山田さんの見舞いに行った。

治美 え？ 山田さん、どうかしたの？

清一 昨日言っただろ、会社で腹が痛いって、

救急車で…。

治美 聞いてない。

清一 言っただよ。

治美 聞いてないって、会社のことなんか何も

も言わないでしょ。あなたが最近言う

のは、「疲れた」だけよ。熱があつて

も会社に行くし、一度人間ドックにで

も行ったら？

清一 山田さんにもそう言われた。じゃ、風

呂入る。

治美 ねえ。

清一 何だい。

治美 シャツとか靴下とか、そこらに脱ぎつ

ばなしにしないでね。

清一 分かってるよ。

治美 分かかってないから言ってるの！ それ

からお風呂出る時、ふたちゃんと閉め

て。電気につけっぱなしは嫌よ。

清一 うるさいなあ…。

治美 私だってパートと家のことで疲れてる

の。もう寝るから、いちいちあなたの

お風呂の後始末まで見てられないの。

それに、毎日こんなに遅いんじゃない。

も相談事なんて出来やしない。

清一 何だよ、相談って。

治美 美絵は来年高校受験なのよ。

清一 試験受けるのは美絵で僕じゃない。

治美 もうっ！

(病院ノイズ)

清一 山田さん。

山田 あれ、また来てくれたの？

清一 僕、今日この病院の一日ドックに入

って、そのついで、って言うか…、す

みません。

山田 そんなことはないよ、ありがとう。

清一 でも、病院つていろんな人が居ますね。

山田 え？

清一 診察室の前で順番待っていた時、ほほ

笑ましい光景を見ましたよ。

山田 ほお、どんな？

清一 八十歳くらいのご夫婦が居て、おばあ

さんが診察室に入る時、おじいさんが、

「一人で大丈夫かい？」って。そして、

おばあさんの手を握って、励ますよう

にほほ笑むんです。いいなあ…って思

いましたね。僕も将来、あんな夫婦に

なりたいなあつて。

なれそう？

清一 いやあ、今のところ無理ですね。そう

したら今度は、妻と同じくらいの年格

好の二人連れがしゃべっているのが聞

こえてきたんですよ。

女1 この間、お宅の優君と家の子が釣りに

行ったでしょ。

女2 ええ。

女1 バケツにいっぱいフナを持って帰って

清一 僕たち夫婦のことみたいに思いました

来たけど、みんな死んで大変だった

よ。

わ。

山田 どうして？

女2 家のフナは元気だったわよ。

清一 最近妻のことを、「うるさいなあ、う

女1 えっ、そうなの？ どうしてかしら

っとおしいなあ」って思っていたけど、

ね？

僕にとつて妻がナマズの役をしてくれ

女2 フナもナマズも元気に泳いでいたわ。

ていたんだなーって。妻もパートや家

女1 えっ、ナマズ…？ もしかしたらその

のことに追われて疲れているのに、な

ナマズに突かれて飛び跳ねて、おかげ

でお僕をつついて元気付けてくれていた

でフナが元気でいたのかもしれないわ

んだ。何だか、目からウロコって感じ

ね…。

でした。一生懸命家のことをやってい

女2 えー、そんなことってあるのかしら。

る妻に、感謝ですよ。

山田 なるほどね。

清一 これ聞いてどう思います？

清一 (冗談っぽく) 今日、帰りに花でも買

山田 え…？

って帰って、妻に捧げようかな…？

山田 奥さんびっくりして、かえってどこか

悪いんじゃないかって思うぜ。

清一 キツイですねー。ハハ…。

山田 ハハハッ。あつ、それより君ねえ、奥

さんに「ありがとう」って言ったこと

ある？

清一 ないですね。

山田 俺ねえ、今度のことで妻に感謝してる

の。俺の親父の介護しながらここに

舞いに来てくれるし、顔色なんか見る

と疲れてるんだ。それでね、「大変だ

ね、ありがとう」って昨日言ったんだ

よ。そうしたらパツと笑顔になって、

俺、あんなうれしそうな妻の顔初めて

見たような気がする。

清一 へえー。

山田 君ねえ、花束より、「ありがとう」の

言葉だよ。

清一 今日の教訓

『うるさく言ってくれる人に感謝』



第六回 「クッキーを焼こう！」

登場人物

美絵

誠

房子

誠 日曜日の午後だ、友達と別れて家に帰るとメッチャいい匂いがした。何だこれ

れは…？

(クッキーを作っている)

誠 姉ちゃん、何してるの？

美絵 見たら分かるでしょ、クッキー作ってるの。

誠 へー、ぶきつちよな姉ちゃんに作れるの？

美絵 ぶきつちよとは失礼な！ 出来ても上げないから。

誠 へへ…、ごめん。

美絵 さっきまで友達がここに居て、作り方教えてもらったの。誠、型抜き手伝う？

誠 やるやる、面白そうだから。

(オーブンの開け閉め)

美絵 これでオーブンに入れてバッチリ、後

は焼き上がるのを待つだけ。

誠　　ア리가行列して、下に落ちたクッキー

のかけら運んでるよ。

誠　　しかし、そうはうまくいかなかった。

美絵　　大変！　誠、何か殺虫剤ない？

焼き上がったクッキーは…。

(戸棚の開け閉め)

美絵　　あれー、ボロボロしてる。どうして？

なんで？

誠　　えーと、ゴキブリのしかないなー。

房子　　殺しちゃうの？　可哀想でしょ。

房子　　出来ましたか？　まあーいい匂い。何を騒いでんの？

美絵　　だって…仕方ないじゃない。

失敗したんだ。

房子　　こんなに一生懸命、美絵の作ったクッキーのかけら運んでんのよ。あなたの

まあまあ、初めてだから仕方がないわ

作ったクッキー、おいしそうだから、

ね。「失敗は成功の母」って言うもの。

アリさん、汗水たらしてお家に運んで

わあー！

るの。

どうしたの？

んー…。

美絵

房子

房子 あなたたち、お庭を歩いているアリ、

わざわざ踏み潰したりする？

誠 そんなことしないよ。

房子 だったら、殺すのやめましょうよ。

美絵 じゃあ、どうするの？

房子 ここにあるからアリが来るのよ。この

かけら、お庭に持って行って置いてく

ればいいのよ。あのね…私のおじいさ

んに聞いた話なんだけど…。

誠 随分昔の話なんだね。

房子 そうよ、おじいさんはお百姓さんでね、

作物の収穫の時になると、いつも鳥や

獣が出て来て作物を取って行っちゃう

んだって。でもおじいさんが言うには、

「私の畑では自然界の鳥や獣の食べる

分まで、神様が育てて下さっているん

だ。だから自分の畑に出来た物は、全

部自分の物と思わずに、鳥や獣たちに

も天の恵みの作物を分けてあげてい

る」

誠 へえー。

房子 でも今はね、食べ物が無くなった動物

たちが畑を荒らして、農家の方たちが

とても困ってて…、本当にお気の毒な

の。森が昔のように戻ったらいいんだ

けど…。あ、だからね、アリさんにも

おすそ分けしてあげたら？ だって美

絵の作ったクッキーが本当においしい

からアリが来たわけですよ。

美絵 アリだけに褒めてもらってもねー…。

誠

僕は大きそうなかけらをつまんで食べた。うん、うん、味だけなら結構イケるよ、と言って、姉ちゃんににらまれた。その夜、姉ちゃんはブツブツと独り言を言っていた。

誠

おばあちゃん、姉ちゃん知らない？

房子

さっきお台所から出て行ったけど。

誠

何してるの？

房子

さあー…。

(戸の開け閉め)

美絵

バターが溶け過ぎてたのかなあ…。それともオーブンの温度が…。

誠

姉ちゃん、庭で何してるの？

美絵

アリさんにね、今日もクッキーを作るから食べに来ないでねって、アリさんの好物をここに置いておくの。初めっからアリさんにもおすそ分けしてあげるのよ。

誠

その一週間後、姉ちゃんはまたクッキー作りにチャレンジした。今度は成功してよ…と、僕の胸は期待で膨らんだ。ところが、姉ちゃんは台所に居ない。

誠

何を上げてるの？

美絵

お砂糖とハム。

誠 ハムー？ 好きなの？

美絵 皆さん、クッキーは焼きたてはおいしい

美絵 らしいよ、ネットに書いてあった。

くないのよ。十分に冷めてから試食し

誠 へえー。

て下さいね！

美絵 で、私のクッキー作りの邪魔しないで

ね、って言いながら置いてるの。ほら

(ワンワン)

見て、ハム喜んで運んでるよ。

誠 本当に喜んでるのかなあ…？

美絵 そうだ、アリさんにもあげたんだから、

美絵 当たり前でしょ、嫌いなら持って行か

ジローにもあげて来よう。

ないもの。

誠 姉ちゃん、アリ来なかったね。

誠 その日のクッキー作りは大成功だっ

美絵 そりゃそうよ、聞き分けのいいアリさ

た。あんまりいい匂いがするものだけ

んたち。誠もアリさんを見習いなさ

ら、家の人たちが交代でのぞきに来た。

誠 なんて、僕にそうくるのかなあ…。

姉ちゃんは威張って言った。

房子 また今週もクッキー作り？

美絵 そうよ。

誠 ヤッター！

美絵 誠、今までののは練習なの。

誠 何、練習って？

美絵 これはチャリティーバザーに出す分。

房子 学校の？ 学園祭の？

美絵 そうよ。

房子 だから今まで一生懸命にやったの？

美絵 うん、あ、このクッキーに名前付けな

きゃ。ねえおばあちゃん、「アリスさん

も大好きなクッキー」っていうのはど

う？

美絵・誠 今日の教訓

『みんな一緒に生きている』



第七回 「ドッジボール」

登場人物

誠

治美

清一

治美

誠

治美

誠

治美

誠

治美

誠

治美

誠

治美

誠

治美

誠

治美

どうして？

だって今日の体育の時間、ドッジボールなんだよ。苦手なんだ…。

ふーん、フフ…。

あっ、お母さん、笑った。ひどい！

だって、私も小学校の時、ドッジボール苦手だったの。ぶつけられてアウトになってばかりだった。

へえー。

下手くそでも一生懸命やればいいのか。ちよつとは元気出た？

うん、行って来ます。

その日の夕方。

誠、何ぐずぐずしてるの？ 学校遅れるわよ。

…うん。

どこか具合悪いの？

そうだったらいいんだけど。

何言ってるの？

ああ、学校、行きたくないなー。

治美

誠、ドッジボールどうだった？

治美

五本の指があるでしょう。その指が皆

誠

あのね、頑張つてやろうと思つてたんだ。僕のところはボールが転がって来た

同じ長さだったらどう？ 物もつかみにくいし、きつと手も握りにくいんじゃないかな。長い指や短い指があるか

たから拾つて、「うまく投げよう！」

らしいの。それぞれ個性があるのよ。

と思つたら、武志つて強い子が、「誠

人間だつて得意なものもあれば苦手なものもあるでしょ。

は下手くそだから」つて言つて、僕の

声）せっかくチャンスだから頑張つて

投げようと思つたのに…。

…うん。

誠、その武志つてお友達も、悪気があ

誠

そうだ、私も高校のころ、すごい苦手

つて言つたんじゃないと思うよ。だから、言われたことも気にしないの。

治美

なことがあつた。

治美

でも…悔しい…。

誠

何、それ？

ほら、手のひら広げてごらん。

治美

家庭科の授業、縫い物。

え？

誠

へえー。

誠

針はしょつちゆう手に刺すし、出来上がりがゆがんだりして…。

治美

針はしょつちゆう手に刺すし、出来上がりがゆがんだりして…。

治美

え？

治美

針はしょつちゆう手に刺すし、出来上がりがゆがんだりして…。

誠

え？

針はしょつちゆう手に刺すし、出来上がりがゆがんだりして…。

誠　でも、僕の幼稚園の時のお弁当袋なん

か、お母さんが作ったんでしょ。

治美　そうよ、頑張ったのよ。誠も頑張った

らうまくなると思うよ。お父さんとド

ツジボールの練習したら？

誠　うん！

治美　それにね、誠だって得意なものもある

でしょ。

誠　えー？

治美　ほらー、大好きな恐竜のことなら、何

でもよく知ってるじゃない。

誠　そっか、そうだよねー。

治美　この間の恐竜展を見に行った時の作文

…、えーと、ジュラ紀は…。

誠　アロサウルスやステゴサウルス。そし

て白亜紀には、プテラノドンやティラ

ノサウルス。お母さん？

治美　なあに？

誠　恐竜ってみんな首が長いと思ってるで

しょ？

治美　そうよ、思ってる。

誠　首の短い恐竜も居たんだよ。

治美　へえー。

誠　竜脚類のディクラエオサウルスの仲間

で…。

治美　あー、もういいわ、恐竜の名前って舌

をかみそう…。ね、あの作文、先生に

とつても褒めてもらったでしょ？

誠　うん、分かった。僕、お父さんとドッ

ジボールの練習して、上手になるよ。

(カラスの鳴き声)

清一 誠、緩いボール投げるからな、受けるよ。

誠 うん。

清一 行くぞ。

誠 いいよ。

清一 えいつ！

誠 (ボールを受ける) あつ、取れた！
投げるよ。

清一 (ボールを受ける) おう、そら！

誠 (ボールを受ける) ヤッター。えい！

清一 (ボールを受ける) よーし、その調子だ。今度はちよつと強いボール。いくぞ。

誠 いいよ。

清一 えいつ！

誠 (ボールを受ける) わあ！

清一 受けられたじゃないか。

誠 えいつ！

清一 (ボールを受ける) よーし、もう一丁。

ほら。

(ガシヤン、犬小屋に当たる)

(キャン、キャン！)

誠 お父さん、もうちよつとでジローを直

撃するところだったよ。

清一 ジロー、ごめんごめん。僕も久し振り

だからなー、手元が狂っちゃった。いくぞー。

治美

あらまあ、でも当分は練習続くかも…。

誠 オツケー。

治美

そうだな…、覚悟しなきゃな。

清一 両手でしっかりと受けろ。

運動不足のあなたのためにもいいんじゃないの？

誠 分かってる！

清一

何だよ、ニヤニヤして…。

清一 おっ！

誠 (ボールを受ける) よし！ えいっ！

治美

練習の成果か、誠は授業以外の昼休み

清一 (ボールを受ける) いいぞ、いいぞ。

も、ドッジボールの仲間に入っている

(朝、鳥の鳴き声)

どうれしそうに言った。ある日のことだ。

治美 おはよう。お父さん、顔しかめてどう

誠

お母さんお母さん。今日ね、クラスの

したの？

中でも強いボールを投げる友達が取

清一 久し振りに運動して、筋肉痛だ。あ痛

れたよ。それで投げ返してアウトを取

たた…。

った。

治美

そう、練習したかいがあったわねー。

治美

えー、何だろう？

誠

ドッジボールが楽しくなった。

誠

遠足や運動会の時のお弁当、いつも最

治美

良かったねー。

高だよ！

誠

翔君って友達がいるの。翔君が他の友

治美

誠つたら…、アハハッ、ありがとう！

達から、「早く投げろよ、何ぐずぐず

治美

今日の教訓

してんだ」って言われて元気がなかつ

『みんなそれぞれ良いところがある』

たから、僕が、「大丈夫？ 気にしな

治美

くていいよ」って言ってあげたんだ。

そう、誠は偉い。以前の誠と同じ思い

をした翔君に声を掛けてあげたのよ

ね。翔君もそのうちに、誠みたいに頑

誠

張れるといいね。

うん！ あのね、今はお母さん縫い物

得意だけど、お母さんのもつと得意な



第八回 「最後の干し柿」

登場人物

房子

治美

昭
(治美の弟)

(玄関チャイム)

昭
ごめんください。

房子
あら昭さん、いらっしやい。治美さん、

治美さん。

治美
はい。

房子
弟さんいらっしやいましたよ。

昭
あ、年の瀬も迫った折に、母の葬儀の

際ありがとうございます。

お母様、本当に急なことでしたね…。

はい…。

治美
実家の母は一人住まいだったけど、と

ても元気で。だから、急に倒れるなん

て思ってもみなくて。もっと田舎に行

って、親孝行していたら良かった…。

後悔しています。

昭
姉さん、ごめん！

どうして？

母さんは俺のせいで亡くなったんだ。

何言ってるの。

昭
俺が心配掛けたから…。実は…会社が

にうちもさつちもいなくなつて、それで…。

房子 私、席を外しましょうか？

昭 いいえ、ここに居て下さい。

房子 じゃあ、ちよつとお茶でも。

(お茶を注ぐ。出して)

房子 どうぞ。

昭 ありがとうございます。俺、社員三人

ばかりの小さな運送会社をやつてたんですよ。

房子 ええ、ええ。

昭 この不景気で仕事が大変だったんです。

それで資金繰りが苦しくなつて、背に

腹は代えられず、母さんに借金を頼み

に行つた…。あんな年金暮らしの年寄

りのところに金を借りに行くなんて、

俺もどうかしてた。本当に悪いことを

した。(涙声) 母さんは心配して…倒れたんだ…。

房子

それは違うと思うわ。あのね、幾つになつても親から見たら、子どもは子どもなの。頼られたら、親はうれしいの。

治美

昭、お母さんはそんなことで倒れたんじゃないと思うわ。

昭

…ごめん。それで田舎の家のことなんだけど。あれ、どうしようか？

治美

え、遺産相続つてこと？

昭 まあ、そうなんだけど。姉さん住む？

房子

治美 まさか。

昭 そうよ、最後の。毎年毎年丹精込めて作って送って下さるの。すごくおいしいのよね。お金や不動産だけが遺産じゃないわ。これだって立派な遺産よ、作り方教えて頂けば良かったわ。

昭 田舎だから、僕も住めないし。

房子 遺産って言えば…。ちよつと待っててね。

ね。

昭 田舎の家の大きな柿の木。

治美 (声を潜める感じ) ねえ昭、それで会社はどうなったの？

房子

昭 倒産した…。

房子

昭 え！

昭 たわね。

治美 これからどうするの？

房子

昭 は家族だつて居るんだし。

昭 あそこは何も無いけど、良い所だったわ。高台の家から日本海に沈む夕日が見えて。

昭 トラック一台残せし、細々と始めるよ。

昭

房子

昭 お待たせしました。はい。

昭 ずっとあのまま残しておきたいけど。家は古いし、空き家にしておくと、家が傷むって言うし。困ったなあ…。

昭 あ、干し柿。

昭

治美 これ、母が作った干し柿ですよ。

房子

昭 いつそのこと、売る？

昭 ん…、そうだねー…。じゃあ…知り合

いの人に、不動産屋さんを紹介しても
らおうか…。

治美 お願い。それで昭、家の後片付けに一
緒に行きましようね。

昭 ああ、もちろん。

治美 数日後、弟と一緒に田舎の家に行った。

昭 姉さん、キョロキョロしてないで、手
を動かさないと、いつまで経っても片
付かないよ。

治美 だって、懐かしいんだもの。お母さん、
いつもこの神棚に手を合わせていたわ
ね。

昭 あ、お母さんの口癖思い出した。

昭 え？

治美 「有り難い、結構なことだ、何の心配
もない」って、いつも言ってたでしょ
う。

昭 それがお母さんの生き方だったね。「有
り難い、結構なことだ…」。そうだね。

昭 (片付けている様子。物を積み上げたり、引き
出しの開け閉めなど)

治美 昭。

昭 何？

治美 この引き出しの中に、干し柿の作り

方のメモがあった！

昭へえー。

治美きつとお母さんが私に残してくれたの

よ。

治美二カ月ほど経ったところだ。

治美お義母さん、弟から連絡があつて、田

舎の家が売れました。

房子そう。

治美定年退職した人が田舎に住みたいっ

て。あの柿の木が気に入って、そして

空気がおいしいし、海に沈む夕日や星

空が奇麗だからって。そのお金、弟に

あげていいですか？ 再出発のため

に。

房子そんなこと、治美さんの自由よ。でも

いい遺産を頂いたわね。

治美何を…？

房子ほら、干し柿の作り方と、それからお

母さんの口癖。「有り難い、結構なこ

とだ、何の心配もない」。いい言葉ね、

これってお母さんからの遺産よ。

治美ええ、そうですね。

房子ねえ、最後に残った遺産を頂きましょうか。

うか。

治美え？

干し柿よ。

治美お義母さんと二人なのに、三人分？

房子もう一つは、亡くなったあなたのお母

様の分よ。

最終回 「鈴木家の一大事」

昭 今日の教訓

登場人物

治美 『目に見えない遺産を大切に』

信一郎

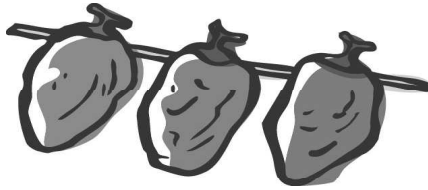
房子

清一

治美

美絵

誠



美絵 誠、お父さんが呼んでるわよ。

誠 何？ 宿題もうちょっとで終わるの
に。

美絵 何だか難しい顔して、みんなで集まっ

てる。

誠 姉ちゃん、何か怒られることした？

治美

ブラジル、サンパウロだって。

美絵 するわけないでしょ、誠じゃないの？

誠

サッカーの国だ。サッカー見られる。

誠 僕、何もしてないよ。

美絵

カーニバルだってあるんでしょ。

房子

そう単純に喜ぶっていうのもねえ。海外旅行じゃないのよ。

清一 実はね……。会社から転勤の話が出た。

美絵

分かってるわよ、そんなこと。

美絵 え、お父さん、みんなまで？ それとも

美絵

サンパウロには会社のアパートがあるし、日本食のスーパーも、日本語の新

単身赴任？

清一

聞もあるそうだよ。生活水準が高くて、物資も豊富にあるって。あっそうそう、

清一 なるべく家族でつてことだ。

美絵

もちろん日本人学校もある。

美絵 (嫌そうに) えー、どこー？ 転校するのー？

美絵

日本人の二世・三世なんて居るんですよ。

るのー？

美絵

居るけど、もう日本語しゃべる人は少

清一 二年間の海外赴任だ。

美絵

よ。

美絵 わっ、カッコいい。

美絵

よ。

信一郎 何だ、手のひら返したみたいに。

清一

よ。

美絵 ねえ、どこ、どこ、アメリカ？ フラ

清一

よ。

ないだろう。

誠　じゃあ、何語なの？

清一　ポルトガル語だ。

誠　僕、行きたい、行きたい！

清一　ただし…。

美絵　どうしたの？

清一　サンパウロは治安が悪いそうさ。

信一郎　日本だって、物騒な事件が度々起きる。

若者は大いに海外に行くべきだ、と俺

は思うな。

美絵　おじいちゃんいつもそう言うけど、前

に私が将来アメリカの大学に行きたい

なって言った時、お父さんが、「家に

はそんなゆとりはない」って言ったわ

よ。

清一　事実だからだ。

信一郎　清一は視野が狭い。

治美　美絵、話を脱線させないで、お父さん

の話を聞きなさい。

清一　ネットで調べたり、聞いたりしたんだ

けど、サンパウロは大都市だ。貧富の

差が激しいから、スリやカッパライが

たくさん居るそうだよ。

房子　怖いよね。

清一　キョロキョロしないで、真つすぐ歩け、

とも書いてあった。

どうして？

清一　お上りさんだって、すぐにスリに分か

るじゃないか。いいカモになるんだよ。

房子　清一、そんな怖い所へ子どもたちや治

美さんを連れて行くって言うの？

信一郎 あるいはリストラ予備軍で、追い払う

治美 でも仕方ありませんよ、お義母さん。

とか…。

房子 清一は昼間会社で危ないことはないけど、子どもたちや治美さんはそうはい

清一 父さん、それが自分の息子に言うこと？

かないわ。それに…。

信一郎 ハハハ…。お前の勤めてる小さな会社

清一 何よ。

でも、海外に行く時代なんだな。

房子 海外赴任の奥さんが家にこもりつきり

房子 この話、断ったら駄目なんでしょう

で、ウツになったって聞いたことがあるわ。

ね？

美絵 もしかしてクビになるの？

治美 私は大丈夫ですから。

清一 そんなことはないと思うけど。

房子 そんなこと、行ってみなくちゃ分からないでしょう…。(ため息) どうして

信一郎 大体、ばあさんは心配のし過ぎだ。家に居たって転んで大けがをすることも

ないでしよう…。

ある。神様にお願いで、守ってもら

清一が海外赴任なんかになったのかし

らねえ…。

えばいいじゃないか。どこへ行っても

清一 それは、僕が優秀だからだよ。

神様の懐の中だからな。世界を見る良

いチャンスだ、清一、行つて来い。

誠

という訳で、それからは父さんはポルトガル語の辞書を買ひ、僕たちは強制的にラジオのポルトガル語講座を聞かされ…。おばあちゃんは神様に無事を祈り…。

(ワンワン…)

誠

僕は、ジローと離れるのがとてもつらかった。

(飛行機の飛び立つ音)



房子

おじいさん、何ですか、毎日毎日郵便受けをのぞいて、この間サンパウロの綺麗な絵葉書が届いたばかりじゃありませんか。

信一郎

分かっている。

房子

治美さんや子どもたちは環境が変わっ

(手紙を広げる)

て忙しいんですよ。度々手紙なんか書

いてる暇はないんです。自分で行けっ

房子

元氣なんですか？

て言ったくせに、そんなに心配なら電

信一郎

ああ、そう書いてある。何々、えーと

話を掛けたらいいんですよ。もつとも

「こつちに来てみたら、日本では見た

時差が十二時間ほどあるそうだから、

ことがないほど、目や肌や髪の色の違い

ちゃんと計算して下さいね。

う外国人が、世界各地から来ていてび

信一郎

心配なんかしてない、うるさいな。(犬

つくりしました」。何言ってるんだ？

に) ジロー、散歩に行こう。

あっちから見たら清一たちが外国人

だ！

(ワンワン)

房子

おじいさん、早く続きを。

信一郎

「日系三世のイザベルという人とお友

信一郎

おつ、郵便屋さん、ご苦労さん。ばあ

達になりました。私は日本語を教えて、

さん、ばあさん、治美さんから手紙だ。

彼女からはポルトガル語を教えてもら

っています。身振り手振りで大変です。

みんなでサンパウロの生活を楽しんで
います」

房子 「やっぱり、神様は見守っていて下さっ
たのですね。」

全員 今日 の教訓

『いつでもどこでも神様と一緒に』

ジロー
ワンワン。



金光教本部 ラジオ放送係

【住所】 719-0111

岡山県浅口市金光町大谷320

【電話】 0865-42-6453

【FAX】 0865-42-2114

【メール】 w-master@konkokyo.or.jp

KONKOKYO

北海道放送	(土)	午前5時10分	山陽放送	(日)	午前6時35分
東北放送	(日)	5時00分	中国放送	(土)	5時50分
ニッポン放送	(日)	4時30分	南海放送	(日)	6時00分
東海ラジオ放送	(金)	5時25分	RKB毎日放送	(日)	6時50分
和歌山放送	(日)	6時50分	宮崎放送	(日)	7時10分
朝日放送	(水)	4時50分			

こころで聴くおはなし

<http://www.konkokyo.or.jp/radio/>